

馬を用いた指導の開始と充実した展開のために

滝 坂 信 一

(肢体不自由教育研究部)

はじめに

馬を用いた指導を始め、また展開する際には、大型動物である「馬」という動物のもつ特徴を知り、配慮しなければならないことがある。これは、他のどのような素材を教育活動に用いる場合にも、その素材の特性を知っておくこと、そしてそれに合わせた指導者の側が配慮が必要になると同じである。

ここでは、障害のある子どもが触れ合ったり乗る相手として適切な、かつ十分に調教されている馬を、馬の専門家とともに教育に用いようとする場合を前提に、予めどのような情報を集めたり、また保護者に伝えておく必要があるのかという点について、本研究所で用いてきた書式を紹介しながら考えてみたい。

1. 身体的な影響に対する配慮

馬に乗るということは身体的な運動を伴う。従って、対象となる子どもたちの身体的な、また健康状態を予め知ったうえで指導の内容を組み立て、実践を行う必要がある。また、実際に乗ることがない場合でも、馬のいる環境自体が生理的に影響を及ぼすことがあり、この点に関しても子どもの状態を知っておく必要がある。具体的には、

(1) 身体・生理面で運動上の制限や留意する点があるかどうか

(2) 動物の毛などにアレルギーがあるかどうか

の二つを挙げることができる。これらを保護者に確認し、また保護者を通じて主治医に確認したり意見を聞いておくことができる。

養護学校や特殊学級に行っている子どもたちの場合、それぞれの学校や学級担任はこれらのうち多くのことを把握している。しかし、馬を用いた学習を行うことを一つの契機に、いま一度これらの情報について保護者と確認し、最近の健康状態や家庭での生活を知ることによって役立つこともできる。なお、どのサイズの、どういった動きのある馬を用いるかを定める目安として、それぞれの子どもの体重と身長も知る必要がある。

各項目のより具体的な内容としては、おおよそ次のようなことがあげられる。

(1) 運動上の制限や留意する点があるかどうか

特に、乗馬（またがる、反動、運動量）ということに関

して制限があるかどうか

例：脳性まひによる股関節の脱臼・拘縮・変形、

二分脊椎による痛・刺激知覚困難、

シャンテイング、脊柱側弯等

環椎軸不安定（ダウン症等）

心臓疾患

呼吸障害や呼吸器系疾患

てんかんの発作

高血圧など循環器系疾患（カテーテル装着等）

(2) 動物の毛などにアレルギーがあるかどうか

馬の毛や馬の飼料となっている植物のアレルギーなど

もちろん、睡眠時間、食欲、全体的な体調など、学習の行われる当日だけでなく数日前からの健康状態を知っておくことは、身体の運動を伴う他の活動を行う場合と同様である。

<資料1>は、馬を用いた指導を行うにあたって、保護者の方々に記入していただいている「乗馬のための健康チェック」票である。これらを個人情報として取扱いに十分注意することは言うまでもない。

2. 日常生活における様子の理解

予め知っておく必要があるのは、身体や健康の状況ばかりではない。馬を用いた指導を実際に担当するスタッフは必ずしもその子の担任とは限らないし、担任以外のスタッフが一緒に活動を行うこともある。むしろ、現状ではそういった場合のほうが多いとも言える。従って、対象となる一人一人の子どもが、日常生活の中で他者とのようなコミュニケーションの取り方をしているのか、初めての体験をする事に対してどのようなとらえ方や態度を取る傾向があるのか、そして、これまで動物と触れ合った経験や馬を近くで見た経験があるかなどについて知っていることは、実際場面での対応や配慮を行っていくにあたっての大きな手がかりとなる。これらの情報については、担任教師からの情報の他、最も長い時間その子の生活を見てきている保護者や施設職員からの情報はとても重要である。<資料2-1>は保護者向けの調査票で、<資料2-2>は担任教師向けのものである。

これらをそれぞれの人々と話しておくことは、実際の活動の過程に見られたその子の姿について後刻話題にする際に非常に役立つ。そこで見られた姿は、それぞれがそれぞ

れの関係や場で見ている姿とは大きく異なっていることが間々あるからである。

3. 初回場面における関係者の留意点

日本では障害のある子どもに対する「馬を用いた指導」という領域がまだ日が浅く、多くの人々にとって始めて目にするという場合が少なくない。このような状況においては、その場に居合わせる担任を始め教師、そして保護者に、そこでは何を大切にしながらどのような学習が展開されるのか、それをどのような視点で見、また関わってほしいのかを説明したり理解してもらうことが必要になる。〈資料3-1〉は、筆者らが養護学校などで実践を行ったり、筆者らの実践を担当の教師が参観する際に用いる説明資料である。また〈資料3-1〉は、参観する保護者への説明資料である。

資料のなかで強調していることは、(1)「馬」というと、どうしても乗せたいと思ってしまう。しかし、「乗る」というのは一つの結果であって、重要なのは「馬」との出会いであり、意欲や気持ちを表現していくそのプロセスである、(2)子どもの意欲や気持ちの表れを大切に、指示・強制しようとする自分に気づいてそれを調整して子どもの姿を見てほしい、(3)その学習(体験)が子どもにとってどのようなものであったのか、身体の様子、本人が馬の体験について自ら話題にすることがあるかどうか、絵や文章などに馬の体験が表れるかどうかなど、事後の様子をしばらくの間の間でいねいに見てほしいということである。

4. 事後の対応

馬との触れ合いや乗ることを通じての学習が、一人一人の子どもにとってどのようなものであったかを知ることは、

行った指導の評価に関する第一の観点となる。そして、以降の実践をより良いものにしていくために不可欠のことである。

また馬に乗ることは運動を伴うものであるだけに、子どもの身体面にどのような影響をもたらしたかについて注意深く事後の様子を見る必要がある。例えば、どこか痛みを感じる個所はないか、反対にとっても楽に感じることもあるか、といったことである。さらに、この領域がまだ若いものであることを考えれば、指導の過程・事後に起こった事実を関係者がそれぞれの観点で集め、その理由や背景について検討してみることが、この領域をより豊かなものとして開発することにつながっていく。〈資料4〉は、その場に立ち会った担任や保護者に記入をお願いする指導後の様子に関する調査票の例である。

5. 指導者・保護者の馬と触れ合う体験

指導者(教師)自身が馬という動物と実際に触れ合ったり乗るという体験をしてみることは、馬との触れ合いや乗ることを教育のなかにどのように活かせるか、教育素材としての特性がどのようなものかを知るうえで大変重要なことである。また、馬を用いた指導が子どもにとってどのような体験をすることになっているのかを、保護者にも馬と触れ合う機会を提供する試みを通じて理解してもらうことができる。この試みは、子どもと保護者が共通の体験、実感をもち、家庭生活のなかでともに話題にすることができるという大きな利点をもっている。

〈資料5〉は、指導者(教師)、保護者に馬と触れ合い、馬に乗る体験を提供する際の調査票である。国立特殊教育総合研究所では、現職教員の研修のなかでも馬を用いているが、そこでもこの調査票を用いている。

3. 刺激に対する知覚過敏（例：自閉症の方の触覚過敏）や知覚困難（例：二分脊椎等による痛覚の困難）はありますか。

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、具体的にお教えてください。日常生活で気をつけていることがあれば、併せてお教えてください。

4. 医師から脊柱側弯や環椎軸不安定について指摘されたことはありますか。

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、具体的にお教えてください。また、これにともなって日常生活で気をつける必要がある内容があれば、併せてお教えてください。

5. 股関節の脱臼や亜脱臼はありますか

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、右、左、両方など具体的にお教えてください。また、これにともなって日常生活で気をつける必要がある内容があれば、併せてお教えてください。

6. 心臓疾患はありますか。

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、具体的にお教えてください。また、これにともなって日常生活で気をつける必要がある内容があれば、併せてお教えてください。

7. 呼吸障害や呼吸器系疾患はありますか。

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、具体的にお教えてください。また、これにともなって日常生活で気をつける必要がある内容があれば、併せてお教えてください。

8. 高血圧、循環器系疾患（カテーテル装着など）はありますか。

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、具体的にお教えてください。また、これにともなって日常生活で気をつける必要がある内容があれば、併せてお教えてください。

9. 動物の毛、植物などに対するアレルギーはありますか

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、具体的にお教えてください。また、これにともなって日常生活で気をつける必要がある内容があれば、併せてお教えてください。

10. てんかんの発作はありますか。

- 1) ない
- 2) ある

ある場合には、以下のことを具体的にお教えてください。また、これにともなって日常生活で気をつける必要がある内容があれば、併せてお教えてください。

- ① 服薬していますか： ア) はい ， イ) いいえ
- ② 誘因として考えられること：
- ③ 発作時の様子と時間の長さ：
- ④ 日常生活で気をつけていること：

11. その他、日常生活を送る上で特に配慮が必要な内容があればお教えてください。

(例：弱視がある、難聴である、会話に手話、マツコ法を使っている、特定の物・事へのこだわりがある等、お気づきのことがあれば何でも結構です。)

* ご協力有り難うございました。お書きいただきました内容は馬と触れ合う、乗る際の配慮を行うための参考とさせていただきますが、個人情報として取扱いに十分注意いたします

(本紙作製：S.TAKISAKA)

調 査 票

記入年月日： 年 月 日

記入者：父 母 その他（ ）

1. お子さんのお名前：
2. 生 年 月 日： 年 月 日
3. おさんの在籍機関： 養護学校 学部 年
4. 主 な 障 害：
5. おさんが他者に対する意志表出やコミュニケーションを日常どのように行っているかについてお尋ねします。特に要求と拒否の仕方についてお教えてください。
(例：まわりが表情から察する、いやなときにはいやそうな声を出す、身振りで示す)
6. 日常生活の中で新しい体験をする際、おさんにみられる様子についてお尋ねします。
 - (1) 初めての場面や活動において (例：抵抗が強く、取り組むまで時間がかかる)
 - (2) 初めて出会う人に対して (例：人見知りがなく、誰とでもすぐに交われる)
7. おさんがこれまでに実際の馬と触れ合った経験があるかどうかについてお尋ねします。該当する番号に○をつけ、質問事項について欄にご記入ください。
 - (1) ない
 - (2) ある「ある」とお答えになった方にお尋ねします。表の中にご記入をお願いいたします。

回	○歳の時 (例：3歳の夏)	どこで (例：千葉の観光牧場で)	どのようなふれあいでしたか (例：怖がらずにふれ、乗ることができた)
1			
2			
3			

8. ご家庭で飼育している生き物があるかどうかについてお尋ねします。該当する番号に○をつけ、質問事項について欄にご記入ください。

(1) いない

(2) いる

「いる」とお答えになった方にお尋ねします。表の中に具体的にご記入ください。

種 類 (例：モルモット)	その動物との具体的なふれあい (例：餌をやる、だっこする)

9. 家庭飼育以外で、お子さんが日常生活の中で動物と触れ合う機会についてお尋ねします。該当するものに○をつけ、欄にご記入ください。

(1) 経験がない(理由：)

(2) めったにない(理由：)

(3) 少ない(理由：)

(4) 時々ある：それはどこですか ()

どのような動物とですか ()

(5) 多い：それはどこですか ()

どのような動物とですか ()

10. 今回、お子さんが馬とふれあったり乗っている場面をごらんになりましたか。該当する番号に○をつけ、質問事項について欄にご記入ください。

(1) 見ていない

(2) 直接見ていないが、ビデオで見た

(3) 直接見た

(2)もしくは(3)とお答えになった方にお尋ねします。ご覧になって感じたことがありましたら、ご意見、ご感想をお書きください。

11. その他、何かありましたらお書きください。

以上です。ご協力誠にありがとうございました。

調 査 票

記入年月日： 年 月 日

記入者氏名：

-
1. 幼児・児童氏名：
 2. 学 年 ・ 教 室： 幼稚部・小学部 年、第 教室
 3. 主 な 障 害：
 4. お子さんが他者に対する意志表出やコミュニケーションを日常どのように行っているかについてお尋ねします。特に要求と拒否の仕方についてお教えてください。
(例：まわりが表情から察する、いやなときにはいやそうな声を出す、身振りで示す)
 5. 日常生活の中で新しい体験をする際、お子さんにみられる様子についてお尋ねします。
 - (1) 初めての場面や活動において (例：抵抗が強く、取り組むまで時間がかかる)
 - (2) 初めて出会う人に対して (例：人見知りがなく、誰とでもすぐに交われる)
 6. 今回、お子さんが馬とふれあったり乗っている場面をご覧になってのご意見、ご感想をお書きください。
 7. その他、何かありましたらお書きください。(例：指導者の関わり方、事後の様子等)

以上です。ご協力誠にありがとうございました。

なお、お知らせいただいた内容につきましては、上述の目的のためにのみ使用するとともにプライバシーの保護には十分留意いたします。

お子さんの馬との触れ合い、乗馬をご覧頂くために

先生方

皆さん、こんにちは。

今日は、お子さんとご一緒させていただきます。私たちはこれまで13年間、障害のある子どもたちの教育素材としての馬の活用について実践と研究を行ってきました。欧米では、プール指導とあわせ、一つの確立した領域となっています。近年、我が国でも注目されるようになり、各地で広がりを見せています

さて、今日は「馬と触れ合う体験」という範囲になると思いますが、それが子どもたちにとってがよりよい、思い出深いものになるために、いくつかのことをお話しておきたいと思います。

1. 今日のお子さんの体調はいかがですか？

今朝の登校時のお子さんの様子はいかがでしょうか。家庭との連絡帳には体調や食事のこと、あるいは家庭であった出来事など、何かお気づきのことはありませんでしたか？

もし、体調がすぐれない様子があったり、気がかりのことがあれば、どうぞ始まる前に私たちにお教え下さい。

2. お子さんの気持ちを大切にしましょう。

子どもが馬と触れ合う機会があると、大人は「せっかくの機会だから」と、どうしても馬に乗せたがってしまいます。しかし、「乗りたい」というお子さんばかりではなく、「静かに近くで様子を見たい」、「なでていたい」、そういうお子さんもいるのです。私たちは、一人一人のお子さんの気持ちを大切に、かけがえのない時間をともに創ってみようと思います。どうぞ、「怖くないから乗ってごらん」とお子さんを無理に押し出さないで下さい。

(1) 乗らないこともあります：不安なのはいいや馬に乗せられてしまうよりも、どきどきしながら近づく事に挑戦し、やっと馬に触れることができたという経験の方がずっと大きいのです。

(2) お一人の時間の目安は ～ 分です：今日実際に馬と触れ合うのは大変短い時間です。しかし、その過ごし方によっては、一生忘れられない素敵な時間になると私たちは信じています。お子さんと馬たちと共にそれを創り出す事にチャレンジしたいと思います。

3. 馬と私たちにお子さんをお任せ下さい。

今日〇〇養護学校にやってきている馬たちは、これまでにたくさんの障害のある子ども達を乗せ、それぞれの子ども達に忘れられない思い出を創ってきた馬たちです。そして私たちスタッフも、たくさんの子ども達の馬との出会いを仲立ちしてきました。この時間、どうぞ馬と私たちにお子さんをお任せ下さい。

そして、どうぞ、馬と出会い、触れ合うお子さんの姿をじっくりとご覧下さい。もし、皆様の助けが必要になったときには、すぐにお声をおかけします。

4. 索の外側でご覧下さい。

馬はお子さんを不安がらせないようにするために、とても気を遣っています。短い時間ではありますが、私たちもお子さんと馬との出会いの時間を濃密で豊かなものにしたいと考えています。これを実現するために、どうぞ索の内側に入らないでご覧いただきますよう、お願い致します。また、紙片や布また傘などがはためく様子は、馬たちを驚かしてしまうことがあります。どうぞお控え下さいますよう、重ねてお願い致します。

5. お子さんの表情を、馬や私たちとのやり取りをご覧ください。

お子さん達は、日常生活にはあまりない経験を今、しようとしています。きっとドキドキワクワクしているに違いありません。ちょっと不安もあるかもしれませんね。そんな、挑戦しているお子さんの表情の変化、成就した表情、姿勢の変化、馬や私たちとのやり取りの様子を是非見逃さずにご覧下さい。きっと、皆さんが考えていらっしゃるよりずっとしっかり成長している姿がそこにあるに違いありません。

6. 後で話題にする。

充実した豊かな体験をした後というのは、穏やかで甘い余韻が続くものです。それは、馬と触れ合ったお子さん自身だけではなく、それをご覧になっ先生方も同様だと思います。私たちは、今日の機会がそのようなものになるよう、努力したいと思います。お昼の時、帰りの会するとき、そして後日、どうぞ今日の出来事を話題にしてみてくださいと思います。

7. どうぞ、お教え下さい。

今日のことについて、お子さんの様子から、私たちのかかわり方からお感じになられたこと、お考えになられたことがありましたら、どんな内容でも結構ですので、お教え下さい。私たちはそれに学び、さらに努力・工夫して行きたいと思います。

お子さんの馬との触れ合い、乗馬をご覧頂くために

保護者の皆様

皆さん、こんにちは。

今回、お子さんとご一緒させていただきます。さて、今日の体験がよりよい、思い出深いものになるために、いくつかのことをお話しておきたいと思います。

1. 今日のお子さんの体調はいかがですか？

昨夜、お子さんは良く眠れたでしょうか。また、今朝の食事は取れましたか？もし、体調がすぐれない様子があったり、気がかりのことがあれば、どうぞ始まる前に私たちにお教え下さい。

2. お子さんの気持ちを大切にしましょう。

子どもが馬と触れ合う機会があると、大人は「せっかくの機会だから」と、どうしても馬に乗せたがってしまいます。しかし、「乗りたい」というお子さんばかりではなく、「静かに近くで様子を見たい」、「なでていたい」、そういうお子さんもいるのです。私たちは、一人一人のお子さんの気持ちを大切に、かけがえのない時間をともに創ってみようと思います。どうぞ、「怖くないから乗ってごらん」とお子さんを無理に押し出さないで下さい。

(1) 乗らないこともあります：不安なのはいいや馬に乗せられてしまうよりも、ドキドキしながら近づく事に挑戦し、やっと馬に触れることができたという経験の方がずっと大きいのです。

(2) お一人の時間の目安は15分です：実際に馬と触れ合うのは大変短い時間です。しかし、その過ごし方によっては、一生忘れられない素敵な15分になると私たちは信じています。お子さんと馬たちと共にそれを創り出す事にチャレンジしたいと思います。

3. 馬と私たちにお子さんをお任せ下さい。

今日やってきているのは、これまでにたくさん子ども達を乗せ、それぞれの子ども達に忘れられない思い出を創ってきた馬たちです。そして私たちスタッフも、たくさん子ども達の馬との出会いを仲立ちしてきました。この時間、どうぞ馬と私たちにお子さんをお任せ下さい。

そして、どうぞ、馬と出会い、触れ合うお子さんの姿をじっくりとご覧下さい。もし、皆様の助けが必要になったときには、すぐにお声をおかけします。

4. 索の外側でご覧下さい。

馬はお子さんを不安がらせないようにするために、とても気を使っています。短い時間ではありますが、私たちもお子さんと馬との出会いの時間を濃密で豊かなものになりたいと考えています。これを実現するために、どうぞ索の内側に入らないでご覧いただきますよう、お願い致します。また、紙片や布また傘などがはためく様子は、馬たちを驚かしてしまう事があります。どうぞお控え下さいますよう、重ねてお願い致します。

5. お子さんの表情を、馬や私たちとのやり取りをご覧下さい。

お子さん達は、日常生活にはあまりない経験を今、しようとしています。きっとドキドキワクワクしているに違いありません。ちょっと不安もあるかもしれませんね。そんな、挑戦しているお子さんの表情の変化、成就した表情、姿勢の変化、馬や私たちとのやり取りの様子を是非見逃さずにご覧下さい。きっと、皆さんが考えていらっしゃるよりずっとしっかり成長している姿がそこにあるに違いありません。

6. 帰り道、帰宅後話題にする。

充実した豊かな体験をした後というのは、穏やかで甘い余韻が続くものです。それは、馬と触れ合ったお子さん自身だけではなく、それをご覧になった保護者の皆さんも同様だと思います。私たちは、今日の機会がそのようなものになるよう、努力したいと思います。帰り道、そして帰宅後、どうぞ今日の出来事をご家族で話題にしてみてくださいと思います。

7. どうぞ、お教え下さい。

今日のことについて、お子さんの様子から、私たちのかかわり方からお感じになられたこと、お考えになられたことがありましたら、どんな内容でも結構ですので、担任の先生にお伝え下さい。私たちはそれに学び、さらに努力・工夫して行きたいと思います。

<資料4>

ご感想・ご意見をお聞かせください

お名前_____

1. 乗馬の学習・体験の後、お子様の身体などに変調はありませんか？ もしお気づきのことがありましたら、どうぞお教えてください。また、それが気がかりであるような場合にはすぐにご連絡ください。

2. 馬とのふれあい、乗馬についてお子様の様子をご覧になってお感じになったことをお教えてください。

3. 乗馬の学習・体験の後にお子様に見られた変化やエピソードがありましたらお聞かせください。

4. 指導者や活動の内容や方法についてお気づきのことがありましたら、お教えてください。

5. その他、何でも結構です。参加されてお感じになったこと・ご意見をお聞かせください。

ご協力、誠に有り難うございました。皆様に教えていただきましたことをもとに、より充実した内容を工夫していきたいと存じます。

<資料 5 >

乗馬体験のための個人調査票

以下は、それぞれの身体に応じた馬を選び、セッションを工夫するためにお聞きするものです。数値に関し、お聞きした内容を今後の実施のために参考にさせていただくことはありますが、個人情報に他が漏洩されることはありません。

担当者：

1. お名前： _____

2. 年 齢： _____ 歳

3. 身 長： _____ cm

4. 体 重： _____ kg

5. 身体の状態：

(1) 医師から指摘されているような運動上の制限があるかどうかについて該当する番号に○をつけてください。

1. ある
2. ない

「ある」と答えられた方は、その内容を具体的にお書きください。

(2) 慢性的な腰痛がありますか。「ある」方は () 内に具体的にお書きください。

1. ある
2. ない

(3) 股関節の異常はありますか。

1. ある
2. ない

(4) 椎間板ヘルニアや頸椎等、脊椎の異常はありますか。「ある」方は () 内に具体的にお書きください。

1. ある
2. ない

(5) 馬の毛についてのアレルギーはありますか。

(6) その他、馬に乗るということに関連して私たちに伝えておきたいことがありましたら、お教えください。

ご協力有り難うございます。皆で充実した機会にいたしましょう。
お問い合わせは _____ までお願いいたします。